



森ボラ 通信

第147号 2014年8月20日発行

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

◆ 野幌森林公園、支笏湖コンサの森成長調査

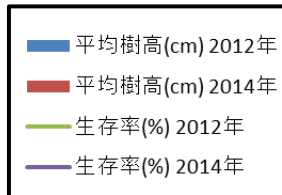
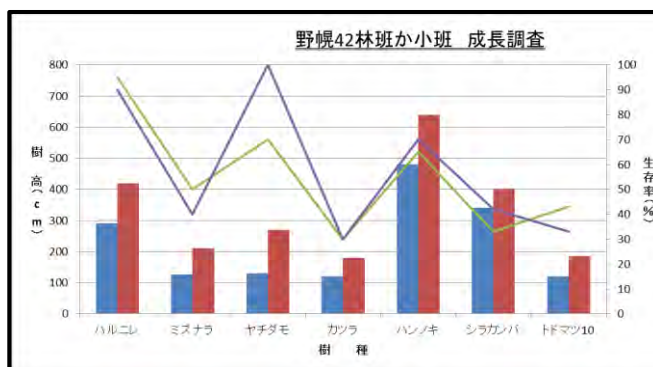
札幌市42林班か小班(野幌森林公園内)及び千歳市5460林班と小班(支笏湖温泉街東側約2.5km)にて、成長調査を行いましたので報告します。

1. 野幌森林公園

ここは当協会が2005年、2006年に人力による地拵えそして植栽を行った面積1.87haの地区で、その後継続して下草刈り、補植を行ってきました。標準列を2列設定、植樹本数232本の追跡をしました。2012年の成長調査と比較した結果を右図に示します。

これより考えられる事は以下のようです。

- ・各樹種の2012年からの成長高は、60~160cmと順調です。
- ・特にハルニレ、ヤチダモ、ハンノキの成長は著しく、また生存率も60%を越え、この地域に合った樹種と考えられます。
- ・針葉樹のトドマツは成長を見せているが、生存率の低下が気になります。



2. コンサの森

この地区は2004年台風18号被災地復興支援事業として、2008年6月にコンサドーレ札幌と石狩森林管理署が協定を結び、当協会が技術的支援並びに育林活動で協働しています。2008年から2010年の間に7,000本を超える苗木を植樹してきましたが、広葉樹の成長が芳しくないため、その列に会員が近郊で採取した種による播種を試みました。その発芽状況を下表に示します。この表から考えられる事を以下に示します。

樹種	樹種別集計					
	2012,10,12	2013,6,13			2014,6,27	
	播種数	発芽数	発芽率	備考	確認数	確認率
ク リ	523	68	13.0%		269	51.4%
オニグルミ	214	30	14.0%		48	22.4%
ミズナラ	188	73	38.8%		131	69.7%
トチノキ	187	99	52.9%	肉食害23	16	8.6%
ホオノキ	6	0	0.0%		0	0.0%
合 計	1,118	270	24.2%		464	41.5%

- ・発芽は一冬を越しただけでは判らず、発芽率は1年以上観察する。
- ・この地区ではクリ、ミズナラの発芽率が50~70%と良好です。
- ・トチノキは鹿による食害が著しく、生存は難しい。
- ・ホオノキは発芽が見られなかったが、種数が少なくさらに播種を検討する。

3. 今後の課題

現在他地区でも播種を試みているので、それらの結果を取り入れてまとめて行きます。今後はさらに各地域の気象、土壌、周辺の母樹環境などを考慮した樹種の選定が望まれます。また、様々な種を同一箇所に播種し環境に合った樹種が生育していく、混播も取り入れていきたいと考えています。(文・樫棒)

◆ ホームマックとのコラボその1 穴地の地拵

札幌市の仲介によりホームマックと協定書を交わし協働して行くこととなりました。場所は澄川都市環境林のキャリコ橋に行く「冬道」です。窪地で水位が高く木が育たない「穴地」つまり無立木地です。樹木園の樹下植栽が前例ですが日蔭を作ってササと蔓の占領地を森林に取り戻すのが狙いです。来るお客さんは幼稚園の年長さんが主だそうで安全のため枯木（これも水位が高いための根腐れが原因か）の伐倒13本落枝処理ササの根の切り下げなど神経を使った地拵となっています。幼稚園でカミネッコに植えて水やり養生して来た苗をここに植えるそうで大人になってふと思い出すこと願って協力しましょう。



人工林の複層林施業の樹下植栽技術は確立されて来ているようですが私たちの狙いは今生えている広葉樹2次林の木が枯れた後の次世代木のなることです。適地適木といいますがいろんな樹種の3本混植単植えによる自然淘汰でやがて適性樹種も分かってくると思われます。（文・酒井）

◆活動報告・・・北海道新聞社ぶんぶんの森下草刈りの報告・・・



7月9日17名が参加して支笏湖ぶんぶんの森(7.05ha)の下草刈りを行いました。刈払機班8名と手刈班9名に別れ、年代毎に植栽した9ブロックはそれぞれ役割分担を決めて作業を開始し、繁茂したウラジロエゾイチゴとイタチハギ(ナナカマドと間違え易い)を中心に刈り取りを行いました。平成21年春からスタートし25年の春までに植栽したトドマツは5,988本でしたか、年月の経過と共に火山灰地に根を張り写真の様に1m超えのトドマツが目立って来ましたが、あと1年間は生長管理が必要と感じました。

また、嬉しい事に至る所にカラマツの稚樹が自然発生し小さな生命力に期待したい。

表土を残して地拵えした0.96haには1m程に生長した灌木のクサギが繁茂し、昨年植栽したトドマツの苗木に覆い被さり生長の遅れとなっているので手鎌で除去しました。（文・事務局）

◆百舌の早贄（はやにえ） 「活動報告・支笏湖烏柵舞の森(5月14日)」

新緑を迎える前の烏柵舞の森で広葉稚樹へのマーキング作業が一斉に行われた。正午前、一緒に作業していた湯沢さんが「モズのはやにえ」だ！との言葉で近づいてみると小枝に刺さったトカゲが日干になっている。

5334林班・標準値No.2の中央部で発見、地上から1000mmほどのところ。残念ながら、近くにはモズの姿は見当たらない。

帰宅後モズを調べて分かったことは、全長20cmほど、日本では全国の平地から低山地の農耕地や林縁、川畔林などに生息・繁殖。秋に最も頻繁に行われるようで、写真のトカゲも昨秋の仕業か。



はやにえの位置は冬季の積雪量を占うことができるという風説もあることから、冬の食糧確保という点でいえば、鳥糞舞の森の積雪はここまで達していないことになる。

モズは、謎と言われる習性があり、様々な鳥(=百の鳥)の鳴き声を真似た、複雑な囀りを行うことが和名の由来(も=百)と言われ、「百舌」とも書く。秋に高鳴きをしてなわばりを確保し、越冬したものは、2月頃から越冬した場所で繁殖する。秋に初めての獲物を生け贄として奉げたという言い伝えから「モズのはやにえ」といわれた。

何のために早贄が行われるかは、よく分かっていない。ワシやタカとは違いモズの足の力は弱く、獲物を掴んで食べる事ができない。そのため小枝や棘をフォークのように獲物を固定する手段として使用しているためではないかともいわれている。



出典：<http://www.suntory.co.jp>

また、空腹、満腹に関係なくモズは獲物を見つけると本能的に捕える習性があり、獲物を捕らえればとりあえずは突き刺し、空腹ならばそのまま食べ、満腹ならば残すという説もある。はやにえにしたものを後でやってきて食べることがあるため、冬の食料確保が目的とも考えられるが、そのまま放置することが多く、はやにえが後になって食べられることは割合少ない。

小さなからだなのに、くちばしはタカのようにカギ型をしており、小鳥を捕らえたりもする。イギリスではモズを「屠殺人の鳥」といい、ドイツでは「絞め殺す天使」と呼んだりするもの、このはやにえから名づけられたものといわれる。

これらのことから、江戸時代はモズは凶鳥で、モズが鳴く夜は死人が出ると信じられました。百舌は大阪府の鳥でもあり、堺市にある『百舌鳥』の地名は「仁徳陵築造の際、倒れたシカの耳から、モズが飛び去った」(日本書紀)が由来しているという。(文・西野(HPアーカイブスに投稿))

◆ 夏の澄川環境林某地点雑感

8月に幼稚園児等が見学に来る。その為の遊歩道開削中の昼下がり小生は彼(蟬)と遭遇した。彼の両親は7年前にこの森に居た。彼の地中生活を視てみよう。

彼の両親は樹木の表面に穴を穿って卵を産みつけている。胡麻粒よりも小さい。卵は樹の中で秋を過ごし、寒い冬を越す。6月、くる日もくる日も雨が降る。森の樹はびっしょり濡れる。すると、樹の中の卵が孵る。

体をくねらせて卵から出て幼虫は薄い膜を脱いで脚が動かせるようになると、歩きだす。ところが、ぼろり! 樹から地面に落ちた。軟らかい土の透き間に潜り込む。これからは土の中で暮らす。幼虫は樹の根っこの側に室を造り、自分のおしっこで壁を綺麗に塗り固める。

土に潜ってから2年が経つと体はスイカの種位になり、前脚のつけ根から伸びたストローのような口を細い根っこに突き刺して汁を吸ってゆっくり大きくなる。土に潜ってから4年が過ぎると幼虫は一円玉位の大きさになった。静かな巣穴で根っこの汁を吸いつづけている。

7年目の夏、五百円玉位の大きさに生長した。外に出る時が近づいたんだ。ポッコ。トンネルから出てきた。永かった土の中の生活もこれでおしまい。幼虫は暫く地面を歩いている処を小生との対面となった。

同僚のO氏が近くの白樺の樹に登らせたらと言った。これからは限られた日々を過ごすのだ。日本は国土の2/3は森林だ。森で出会える昆虫、野鳥、花、樹木などとの触れ合いを通して子ども達が森についての興味・関心を持ち自然は「美しい」と感じていただければ幸いである。

(文・小笠原)



■ 今月の幹事会

出席者：市山、大窪、荻田、樫棒、酒井、佐野、高野、釣井、西野(梯)、矢澤、和田

1. 2014年9月、10月スケジュール・・・幹事会9月12日(金)
 2. 第4期ローソン事業 あずまや建設構想・・・西野(リーダー)、田山、大窪、米重
札幌市みどりの課への報告
 3. 親子森林環境教育プロジェクト立ち上げの件・・・大窪(リーダー)、和田、清澤、市山
今年度中にプロジェクトで素案作り。
 4. 道民森づくりネットワーク2014(10/18)・・・のこぎり体験とコスター作りコーナーを予定
 5. 森林・山林多面的発揮機能対策進行状況・・・コンサの森で札幌工科専門学校を対象に空間利用
 6. 奥尻島研修旅行(9月24・25・26日)・・・参加者23名
 7. 活動計画
 - ・ホームマック支援活動(8/18)・・・澄川環境林で菊水いちい幼稚園児18名カミネッコン植栽
 - ・8月27・28日・・・水明郷、烏柵舞の下草刈り(他の林班の状況を見ながら)
 8. 委員会報告
 - 広報委員会(土日イベントポスター) 業務委員会(8月活動報告)
 - 助成委員会(ふるさと、ローソン第3期事業報告)
 9. その他
 - ・澄川環境林で北大オリエンテーリング大会(9/27・28)
 - ・北ネットを通して月刊あ・そ・ぶ に“土日森林ボランティアしませんか”案内されました
 - ・8月14日から最新鋭のコピー機に入れ替わりました
 - ・7月会計報告
- ★幹事会後納涼会(大通6丁目の会場)・・・出席者9名。2年続きの雨に見舞われました。

■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
7月14日(月)	有明	7	ササ刈り。倒木処理
7月15日(日)	リンゴ園	1	摘果、ふくろ架け
7月16日(水)	リンゴ園	8	摘果、ふくろ架け
7月20日(日)	澄川	13	HM用地(0.5ha)の地拵え(枯損木11本処理)
7月22日(火)	澄川	16	薪造り。C-4 HM用地地拵え
7月23日/24日	支笏湖烏柵舞の森	16/16	下草刈り。人力地区はツボ刈り
7月28日(月)	有明	5	無立木地のササ刈り・チシマササ親指の太さ
7月30日(水)	澄川	13	8時炭焼き窯の火入れ。夜はホタル観察会
7月31日(木)	澄川	6	炭焼きあと片づけ。
8月2日(土)	澄川	14	Eゾーンの作業道開墾。炭焼き窯開き
8月4日/5日	支笏湖水明郷・烏柵舞	16/4	下草刈り/札幌工科専門学校野外実習
8月8日(金)	ラルズビル	11	定例幹事会
8月11日(月)	澄川	2	苗畑の除草、蔓切り。駐車場付近のクズ除去
8月17日(日)	澄川	13	A-1 ローソン野外活動の為の植栽地整備
8月18日(月)	澄川	15	C-4 菊水いちい幼稚園児カミネッコン植栽